



NBL Technovator グループ

〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野631  
TEL/FAX: 072-493-8601  
<http://www.nbl-technovator.jp/>

45年もの歳月

ひとすじに社会に貢献してきた

世界に類を見ない研究開発会社

株式会社NBL研究所を中心としたグループ



*NBL Technovator Group*

-株式会社NBL研究所

世の為 人の為

限界に挑戦する

International Technovators\*



(\* 造語 : Technical Innovators)

代表者より



私は、NBLの創設者です。後輩に経営を継承していただく、最終の事業化の仕事です。

私は、

「研究開発の基本：技術は基礎から、開発は歴史から、ニーズは伝統から、事業は国際から、  
すべての基本は健康から」

と考えています。最後の仕事に後世の育成を主眼として、目標達成まで頑張ります。

グループが大きくなりましたが、会社設立時の精神

“International Technovators”

を実行して、技術は常に世界一を維持し、会社利益も次の目標で大きく拡大いたします。

代表取締役社長 西野 義則

経営理念

世の為 人の為

皆それぞれの一隅を照らしつつ

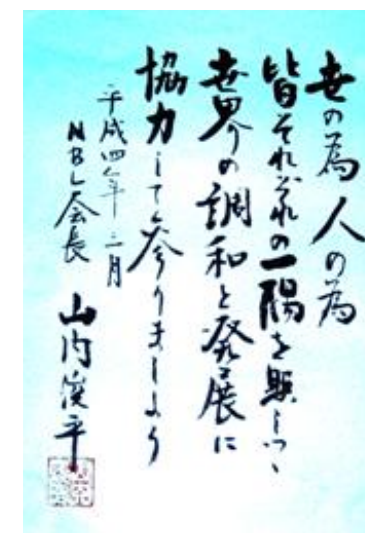
世界の調和と発展に

協力して参りましょう

平成4年2月 NBL会長 山内俊平

故 山内俊平博士の言葉のもと、

世界一の技術力で邁進して参ります



組織構成



- グループのホールディング機能を持ち、研究開発・投資業務を行います。
- 主にFRPによる耐食油井管の製造販売及び、必要な原料・製品の輸出入業務を行います。
- グループの素材を取扱い、ガラス繊維・エポキシ樹脂の製造加工販売、FRP用樹脂の加工販売を行います。

(\* 計画中)



役員構成

氏名	役職				
	NBL研究所	NBLマテリアル	NBLインターナショナル	上海NBL	珠海NBL
西田俊夫	相談役	相談役	相談役		
大塚豊	相談役	相談役	監査役	監査役	
西野義則	代表取締役	代表取締役	代表取締役	副董事長	董事長
田村進一	取締役 研究所長	顧問	執行役員	顧問	顧問
西野正毅	取締役		取締役	董事 副総経理	
岡崎耕三	取締役 副研究所長	顧問	顧問		
天野正孝	取締役	取締役	執行役員	顧問	
鵜原正己	取締役	取締役	取締役		
新家修司	取締役	取締役 専務	取締役	董事	管理監査役
三田与志雄	監査役	監査役			監査役

実績

受賞(学協会、政府機関から)

- 強化プラスチック協会論文賞(1983) : FRP管の継手設計法
- 大阪市ベンチャービジネスコンペ入賞(1998) : 遠心成形法
- 京都市ベンチャー目利き委員会Aランク認定(2009) : 油田用FRP耐食高压管の開発
- 日中政府上海フォーラム・上海環境エネルギー会議プロジェクト認証(2008) : 遠心成形法による油田用FRP管等、他多数

公開発表論文・特許

- 複合材料科学に関する公開研究発表・論文 --- 94件
- 情報科学に関する研究発表・論文 --- 130件

特許

- 日本国特許出願件数(共同出願を含む) --- 843件 (FRP製品・生産方法・材料・駐車装置・レジャーヨット・電子決済)
- 国際特許出願数 --- 70件 (日本・アメリカ・カナダ・ドイツ・イタリア・ニュージーランド・韓国・中国・インド)

(2009年4月まで)

複合材料科学と情報科学

限界に挑戦する民間技術研究所

# 株式会社NBL研究所

- NBL Technovator Co., Ltd.

## 企業概要

会社名	株式会社NBL研究所
所在地	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野 631
TEL	072-493-8601
FAX	072-493-8601
設立	1988年
資本金	約1億円
代表者	西野義則
従業員数	約15人

## 沿革

1988年4月	奈良県大和高田市に会社設立
1989年12月	大阪市港区にNBL本社移転
1994年3月	ガラス繊維用副原料事業開始
2006年4月	大阪府泉佐野市臨空地区に本社ビル完成
2007年4月	NBL本社にテクノベータ技術研究所を開設
5月	CW-API高压管の生産に世界で初めて成功
2010年8月	株式会社NBL研究所設立
2015年1月	GPIプロジェクト結成

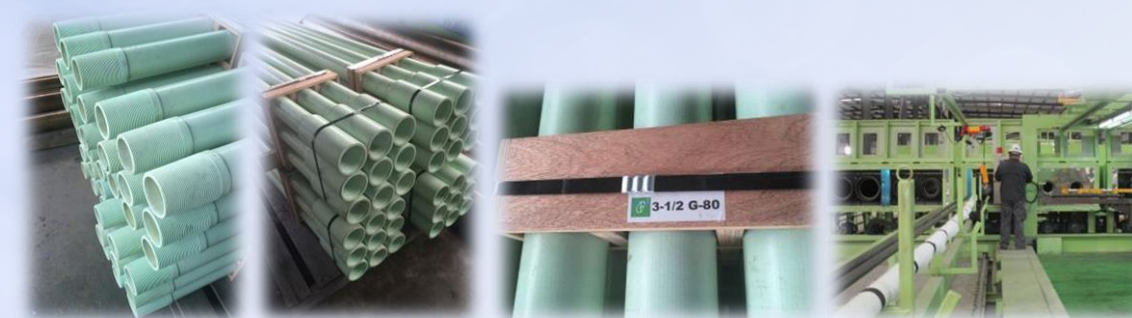
## 株式会社NBL研究所とは？

NBL研究所は、人と技術を基盤にしたNBL Technovator Groupの中核会社で、国際的権威をもつ民間の技術研究所です。アカデミックな基礎技術を大学研究室とともに研究し、基礎研究から先端研究、そして事業開発を行います。

## 事業内容

### ■ CW-FRP耐食性高压管の研究開発

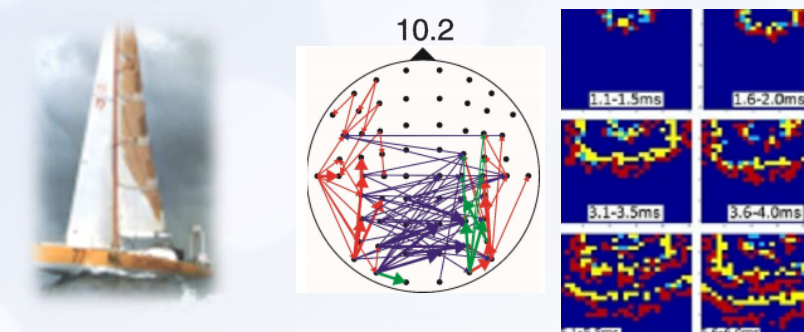
NBL製FRP油井管は軽量で優れた耐食性・耐圧性を持ち、金属管の代替及び金属管では適用できなかった新領域にまで参入できる世界最適な油井管です。



### ■ トレーサビリティシステムの開発・実用化研究

高深度油井や枯渇油井に対してEORなど、新たな埋蔵資源の利用がさかに行われる今、油井管にはよりいっそうの安全性・信頼性が求められています。そのため、NBL研究所では、製品を個別に認証し、耐久性能を追跡確認できるトレーサビリティシステムを開発し、実用化に向け推進中です。

### ■ NBL研究所では他にも高い技術力を活かし、情報科学分野では人間の頭脳情報機能の解析や、医療情報及びネットワークなど様々な研究開発を行っています。



油井用FRP耐食性高压管で  
地球資源の有効活用にご貢献する

# NBL INTERNATIONAL株式会社

- NBL International Co., Ltd.

## 企業概要

会社名	NBL INTERNATIONAL株式会社
所在地	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野 631
TEL	072-493-8601
FAX	072-493-8601
設立	2004年12月
資本金	9,900万円
代表者	西野義則
営業範囲	耐食FRP高压管の製造販売業及び必要な原料・製品の輸出入業務

## 沿革

2004年12月	コンテナハウジングシステム(CHS)(株)設立
2006年4月	大阪府泉佐野市臨空地区に本社ビル完成
2007年5月	CW-API高压管の生産に世界で始めて成功
2008年8月	遠心成形法による500気圧管の事業開発NE DO採択
2010年8月	株式会社NBL研究所設立
2013年8月	CHS株式会社、NBL INTERNATIONAL株式会社に社名変更
2015年1月	GPIプロジェクト結成、GPI標準油井管製造販売開始

## NBL INTERNATIONAL株式会社とは？

NBL INTERNATIONALは、主に強化プラスチック複合材(FRP)による耐食油井管の製造販売及び、製造に必要な原料・製品の輸出入業務を行う、国際製造販売会社です。

NBL INTERNATIONALはグループのヘッドカンパニーである株式会社NBL研究所が開発した技術の提供を受け、GPI標準の耐食油井管の国際事業展開を行う会社で、国際企業と合併グループを形成しています。

## 事業内容

### FRP耐食性高压管の製造販売

これまで、石油採掘用の油井管・ラインパイプには、重く使い難い金属管が用いられてきました。

その中、石油・ガス埋蔵場所の深井戸化により、採掘採油は腐食性の強い過酷な環境下に移りつつあります。



NBL研究所のDr.Nishinoは、45年に及ぶ研究開発によって、優れた副原料と独自のFRP成形による「遠心成形法 = CW法」・加工技術の開発に成功しました。

これにより生産されたNBL製FRP耐食性高压管は、軽量で優れた耐食性・耐圧性を持ち、既存の金属管の代替及び金属管では適用できなかった新分野・新領域にまで参入できる、世界最適のGPI標準油井管です。



ガラス繊維の副原料  
繊維・樹脂の技術開発

# NBLマテリアル株式会社

- NBL Materials Co., Ltd.

## 企業概要

会社名	NBL マテリアル株式会社
所在地	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野 631
TEL	072-493-8601
FAX	072-493-8601
設立	2009年
資本金	83万円
売上高	約8億円(2013年度)
代表者	西野義則

## 沿革

2009年7月	NBLマテリアル株式会社設立
2010年8月	株式会社NBL研究所設立
2011年3月	ガラス繊維マットの乾式成形法開発
2012年6月	株式会社NBL研究所のグループに入る
2014年6月	高圧管用のガラス繊維及び高圧管用樹脂の製造設備開発
2014年9月	高圧管用の液状エポキシ編成樹脂の新製造技術(NBL研究所開発)を継承、製造販売開始
2015年1月	ガラス繊維サイジングのエポキシエマルジョン製造販売

## NBLマテリアル株式会社とは？

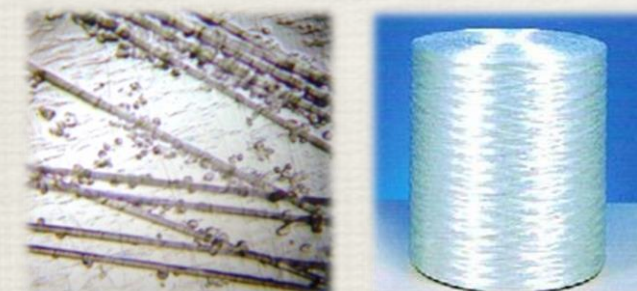
NBLマテリアルは世界に拠点を持つ、ガラス繊維・副原料の設備・技術サービスの会社です。

主にガラス繊維の製造加工販売、FRP用の樹脂の加工販売、エポキシ編成樹脂の製造加工販売を行う、NBL Technovator Groupの素材取扱い企業です。

## 事業内容

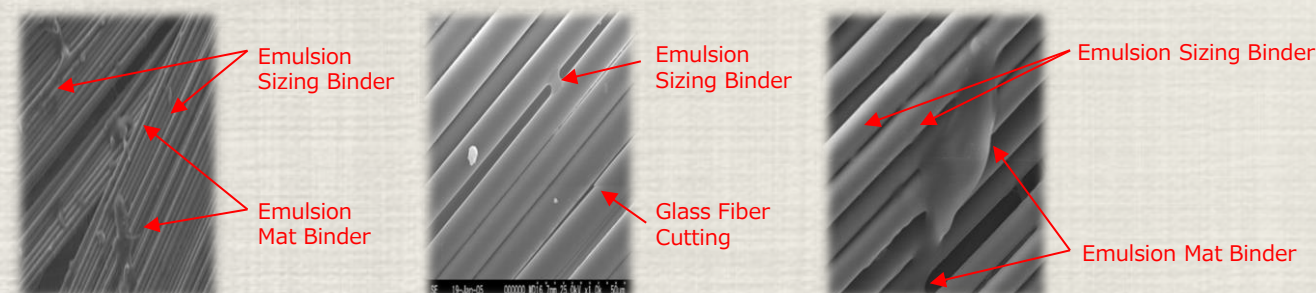
### ■ SIZING材の開発・生産設備の開発

ガラス繊維生産に必要な副原料、設備や電子用糸・FW/CS用ローピング・CSMバインダー・FRP生産用のフィラー・無機材用の添加剤などを研究開発しています。



### ■ ガラス繊維マット・バインダー

マットバインダーに必要な機能は、適正なサイジングバインダーで繊維間をスポット接合された繊維束をランダムに板状にして、繊維束間を固定することです。NBLマテリアルでは、この繊維束の交点のみを接合する、理想的なマット理論を解明し、バインダーの最適な効果を得た、エポキシ系NBL-113バインダー、エマルジョン系NBL-NS001を開発しました。



NBLマテリアルでは開発した新マットバインダーによるマット製品を自社生産し、販売しています。

